

教員のウェルビーイング低下要因に関する一考察

—クォーターライフクライシスに着目して—

教育実践高度化専攻 学校マネジメントコース

武田 多聞

本研究は、若年教員のウェルビーイング指数(W-B)低下の要因を明らかにし、特に25歳前後に生じるクォーターライフクライシス(QLC)との関連を検証することを目的とした。

令和6年にA県の公立小中学校教員を対象に予備調査を実施した結果、25歳のW-Bが他の年齢より低く、心理的危機の存在が示唆された。そこで、令和7年には20代教員741名を対象に量的調査を行い、QLCの前・中・後の三群比較を実施した。その結果、W-Bは「QLCの中」で有意に低下し、「25歳の壁」が確認された。「将来への展望」「環境と自己」「プロ意識」がW-Bを高め、「ネガティブ思考」がW-Bを低下させることも確認された。「校務分掌の良好さ」「同僚関係」「勤務校への適応」などが保護因子として機能していることも明らかとなった。また、困難克服には「同僚への相談」「教員仲間との対話」が有効であることが示された。以上より、QLC期の教員に対しては、「将来展望の明確化」と「自己効力感の強化」がW-B向上の鍵となることが示唆された。